

# トマツおが粉の活用にも有効なブナシメジ新品種

利用部 微生物グループ 原田 陽

## 研究の背景・目的

- 当試験場では、今までに既存品種に比べて短期栽培が可能な品種「マープレ88-8」(品種登録第10959号)、次いでカラマツおが粉の利用適性が高い品種「マープレ219」(同第20595号)を開発しました。
- その後、他産地と差別化を図れるような次世代品種開発の強い要望を受けていました。

新品種の開発目標として、(1)道産針葉樹(カラマツ, トマツ)の利用性向上 (2)傘の弾力性と食感の両立 (3)きのこのボリューム感, 嗜好性および機能性の向上を挙げ、(株)ソーゴと共同で取り組んだ成果を紹介します。

## 研究の内容・成果

表1 選抜品種の品質特性(既存品種との比較)

評価項目	菌株					
	52	117	126	147	151	161
傘の開きにくさ	○	○	△	○	◎	○
傘の揃い	×	△	△	×	○	×
傘の弾力性	○	○	○	△	◎	○
味	×	×	△	△	○	△
食感	△	△	×	△	◎	○
商品性	△	○	○	×	◎	△

◎: 良い ○: 同程度 △: 不明 ×: 悪い



図1 選抜品種のブナシメジ  
下左: 既存品種 下右: 選抜品種

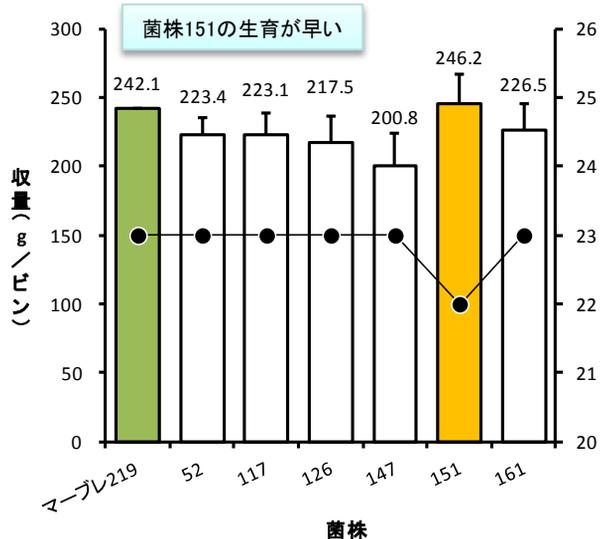


図2 実生産施設で得られた栽培結果  
平均値±標準偏差, N=79~98 (219のみ約28,000)

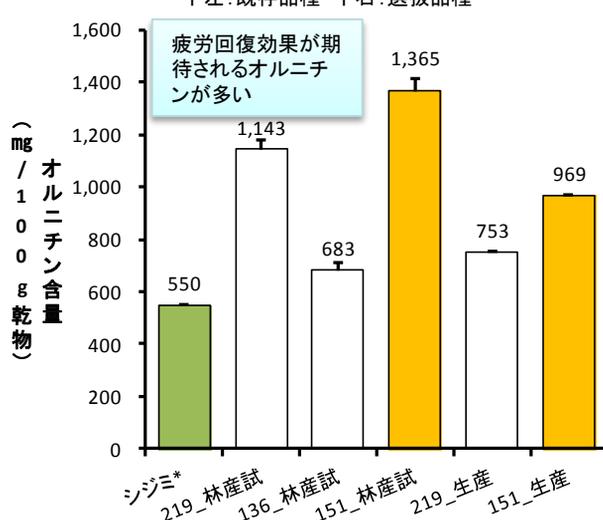


図3 機能性アミノ酸(オルニチン)含量の比較  
\*文献値、平均値±標準偏差

## 今後の展開

- 実生産施設で栽培試験を繰り返しながら栽培規模の拡大を進め、結果の再現性や安定性を検証した上で、実生産への活用を進めます。
- 選抜菌株の実用性が確認された場合には、速やかに品種登録出願の準備を進めます。